



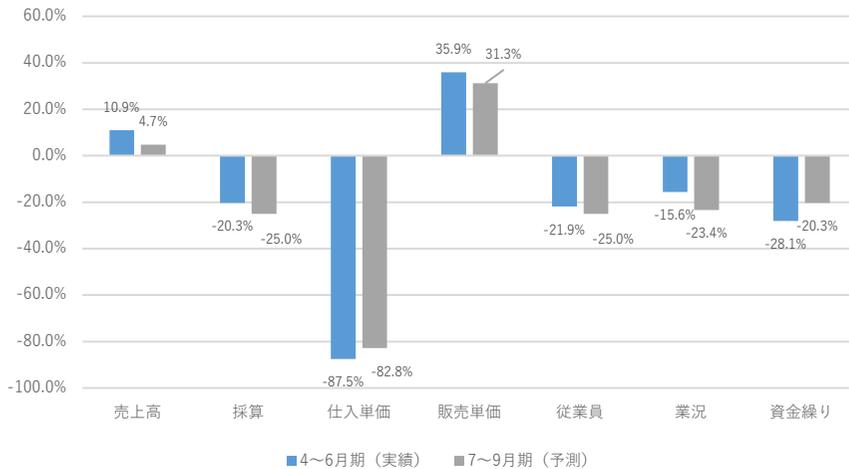
塩釜商工会議所

景気動向調査

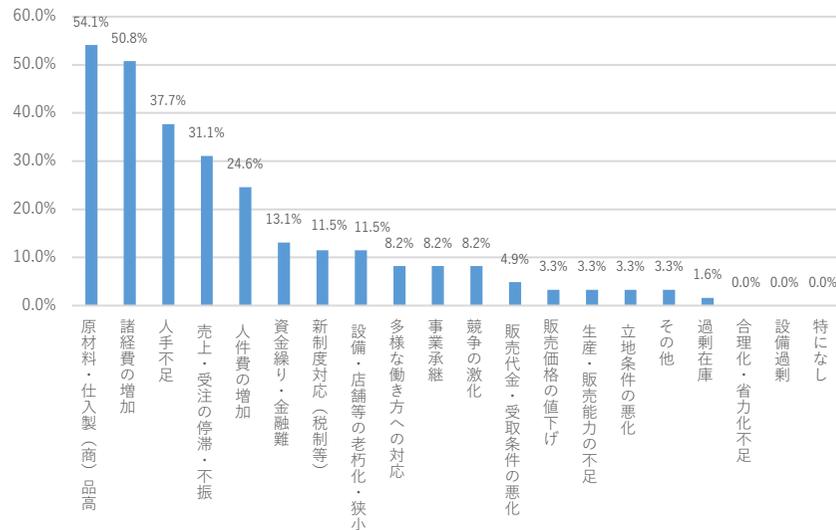
令和5年4～6月期

調査結果 総評

▼質問項目別 D.I 値（全業種平均値）



▼経営上の課題（全業種平均値）



【総評】

①D.I値

- ・売上高がプラスとなっているが、採算はマイナスに落ち込んでいる
- ・業種を問わず、多くの事業者が仕入単価の上昇を実感しており、収益を圧迫している要因の一つと推察できる

②経営上の課題

- ・「原材料・仕入製（商）品高」、「諸経費の増加」を回答した事業者が5割を超えた
- ・「人手不足」、「人件費の増加」といった、雇用面での課題を抱える事業者も目立つ

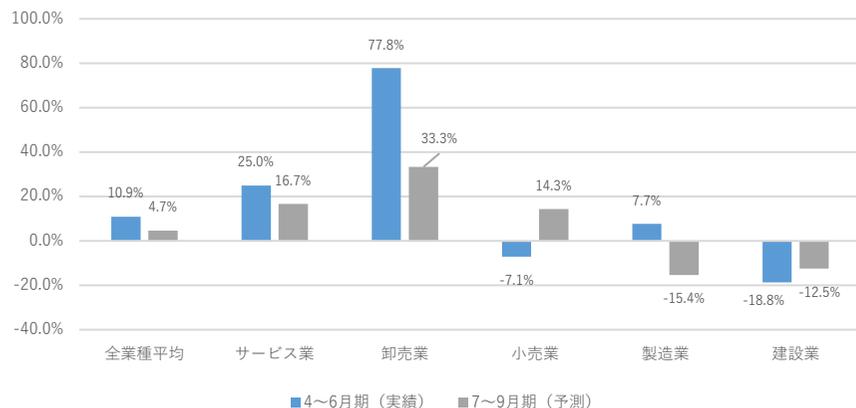
③事業者の声

- ・一時期インバウンド需要が増加したが、コロナウイルスの再流行により、状況は一進一退している
- ・少しずつ受注が増えてきているが、コロナ前ほどに戻ってはいない
- ・原材料や仕入商品だけではなく、光熱費や社会保険料の負担増が続いて苦しい
- ・人手不足に加えて人件費（賃金）の上昇もあり、従業員の安定した確保が難しい
- ・物価高による消費者の買い控えを感じる。物価高騰対策をお願いしたい
- ・仕入価格の高騰を販売価格に転嫁できない
- ・街の中に人通りがない。回遊策を講じてほしい
- ・借入の返済猶予を受けているが、目の前の物価高騰対策で返済が遅れる見通し。運転資金が不足している
- ・運送費の値上がりが苦しい。物流におけるいわゆる2024年問題も悩みの種
- ・働き方改革への対応が難しい

業種別D.I値

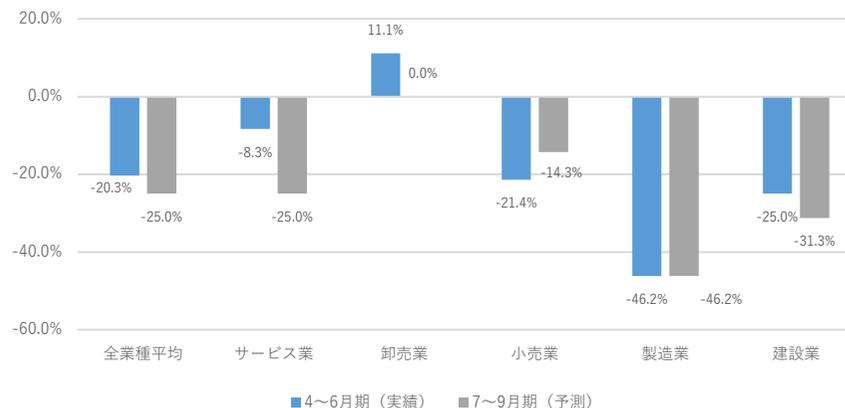
単位：パーセントポイント

売上高



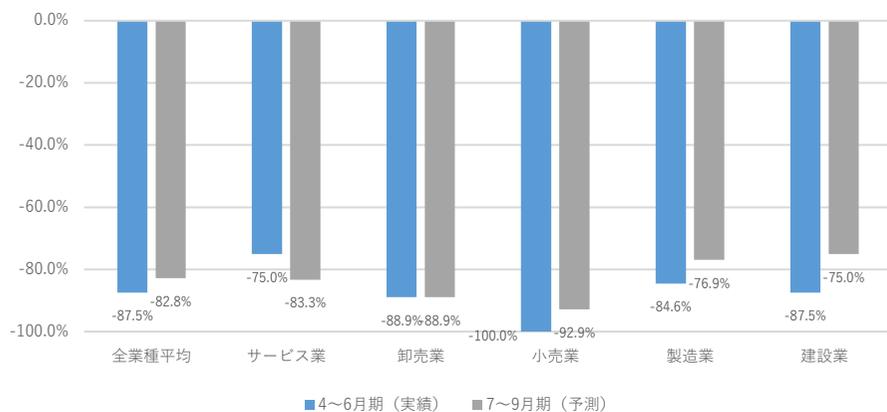
- ・特に卸売業の売上が77.8と好調だった一方、建設業では▲18.8を記録
- ・次期は小売業を除くすべての業種が悪化の予測に

採算



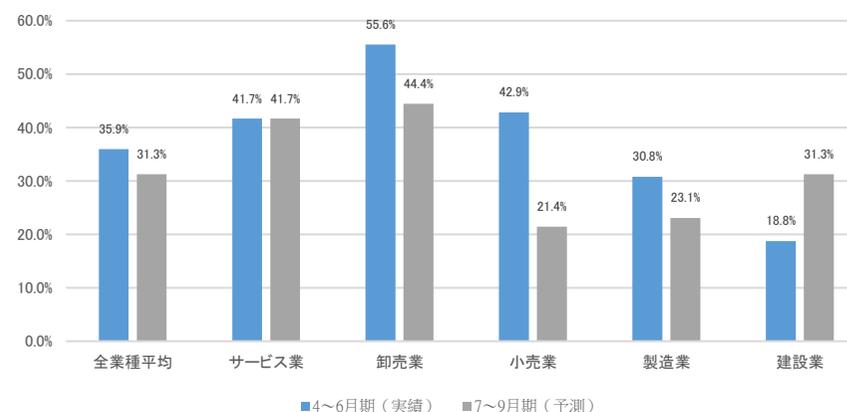
- ・卸売業を除くすべての業種が悪化となり、特に製造業は▲46.2と特に悪化した
- ・次期は、小売業では改善予測も、厳しい状況は続く予測に

仕入単価



- ・小売業が100.0を記録。回答したすべての小売業者が「上昇」を選択
- ・仕入単価の上昇はすべての業種に共通しており、次期も続く予測に

販売単価

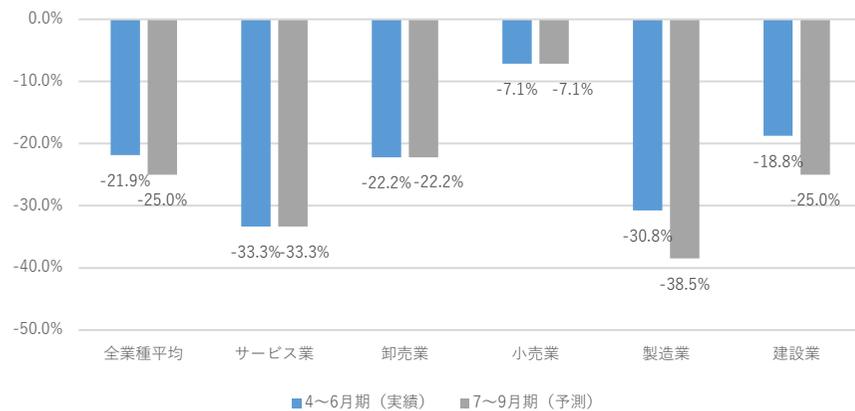


- ・卸売業が55.6を記録。すべての業種で販売単価が上昇している
- ・建設業は、次期上昇の予測。そのほかの業種は現状維持または減少予測に

業種別D.I値

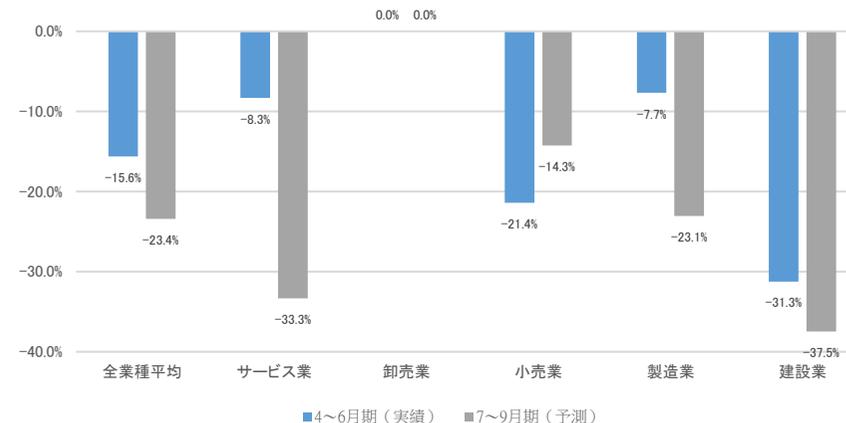
単位：パーセントポイント

従業員



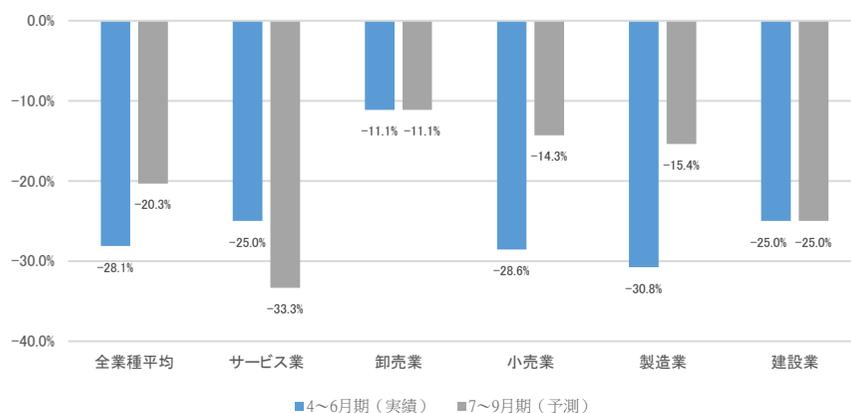
- ・すべての業種でマイナス（不足）を記録。特にサービス業では▲33.3を記録
- ・次期もすべての業種で現状維持、または悪化の予測に

業況



- ・建設業が▲31.3を記録。卸売業を除いたそのほかの業種もマイナス値となった
- ・サービス業の次期予測が▲33.3と大幅な悪化に。建設業も▲37.5を記録

資金繰り

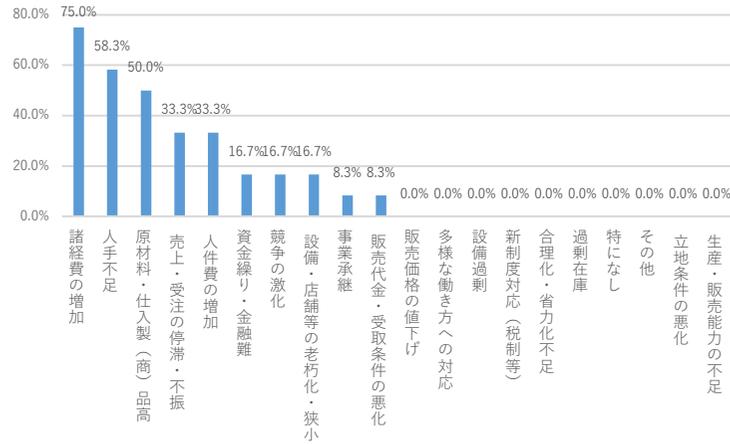


- ・すべての業種でマイナス値を出した。特に製造業では▲30.8を記録
- ・サービス業の次期は▲33.3と悪化予測に。小売業、製造業では改善の見通し

業種別経営上の課題

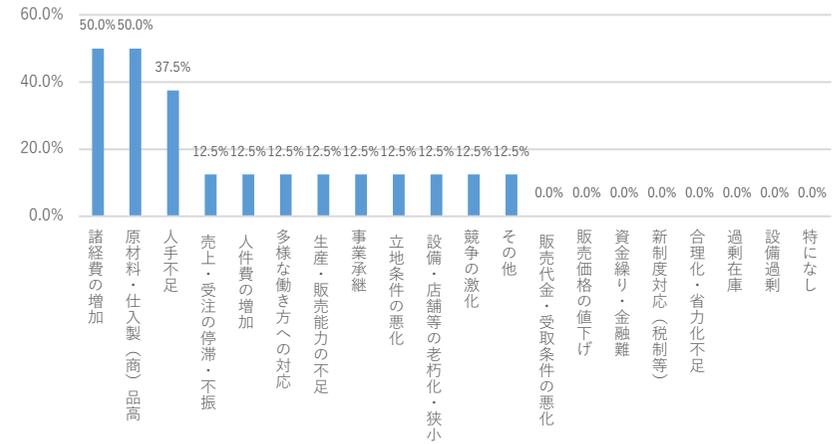
単位：パーセントポイント

サービス業



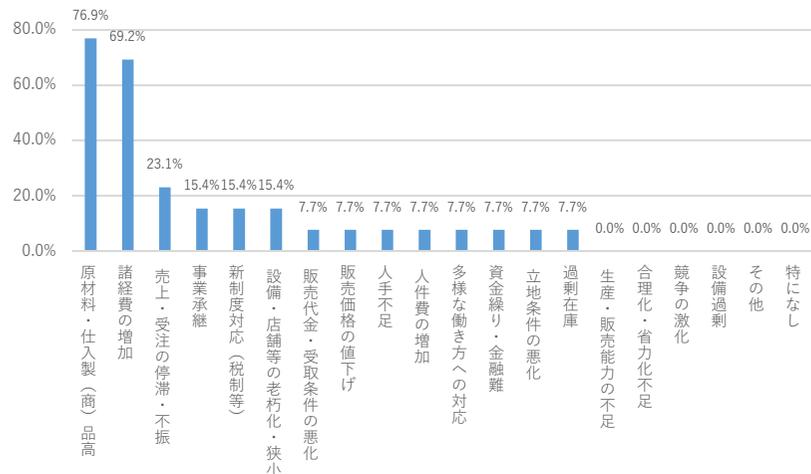
- ・「諸経費の増加」が75.0%を記録、多くの回答が集まった
- ・「人手不足」も58.3%を記録、「人件費の増加」の回答にも33.3%が集まった

卸売業



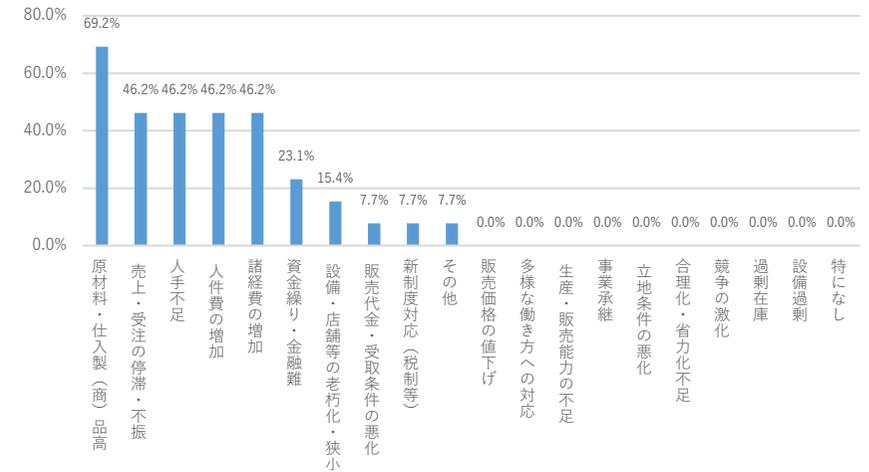
- ・「諸経費の増加」、「原材料・仕入製(商)品高」が50.0%を記録
- ・「人手不足」が37.5%で続いたほかは、各選択肢に回答が分散した

小売業



- ・「原材料・仕入製(商)品高」が76.9%を記録
- ・「諸経費の増加」も69.2%を記録し、この二つの選択肢に回答が集中した

製造業

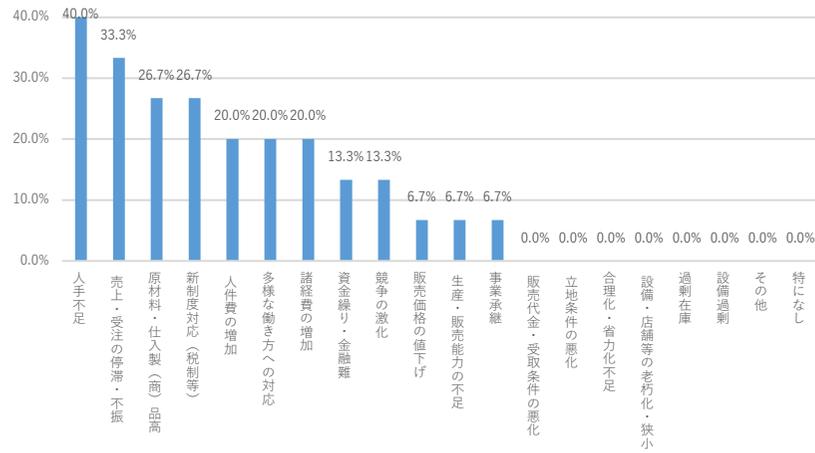


- ・「原材料・仕入製(商)品高」が69.2%を記録
- ・46.2%の回答率で4つの選択肢が並んだ

業種別経営上の課題

単位：パーセントポイント

建設業



- ・ほかの4業種と異なり「人手不足」が最も多い40.0%回答を集めた
- ・「売上・受注の停滞・不振」が33.3%と続いた

参考 調査概略

調査対象時期	令和5年4～6月 ※次期予測は7～9月
調査対象者数	商工業者100者（サービス業、卸売業、小売業、製造業、建設業 各20者ずつ）
回答率	61.0%
調査方法	郵送によるアンケート方式（回答方法は紙媒体または-googleフォームの選択式）
調査内容	(1)業界景気、自社景況などの実績と次期予測
	(2)経営上の課題
	(3)新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴う事業環境の変化や、望みたい支援、経営にまつわる困りごとなど

▼DI値（景況判断指数）について

（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

※日本商工会議所 LOBO調査 調査結果より